

KAWASE HASUI

川瀬巴水

～心に染み入る癒やしの風景～



かわせ はずい
川瀬巴水

約40年にわたる画業生活の大半を大田区内で過ごし、旅から旅へと全国を歩き、古き良き日本の風景を描き続けた新版画の第一人者、川瀬巴水(本名は川瀬文治郎)。

区内を描いた「馬込の月」など、国内外で高い評価を受けてきた風景版画はどのような心情から生み出されたのでしょうか。郷土博物館での特別展に先駆けて、数多くの作品の一部を巴水の言葉とともにご紹介します。



馬込の月「東京二十景」昭和5(1930)年作

1 塩原 しほがま

大正7(1918)年秋

体が弱かった幼少期を過ごした塩原(栃木県)を描いた作品。初めての木版画。

「塩原は私を非常に可愛がつて呉れました、(中略)板画の第一歩に此の塩原を選びましたのは、私として頗る意義ある事と存ぜられます」※1



明治16(1883)年 0歳
東京市芝区露月町(現・港区新橋)に出生。

明治43(1910)年 27歳
日本画家・鏑木清方に入門。後に「巴水」の名を与えられる。

大正7(1918)年 35歳
版元・渡邊庄三郎の下で、処女作「塩原 おかね路」「塩原 畑下り」「塩原 しほがま」を出版。

大正12(1923)年 40歳
関東大震災後、日本各地を巡る人生で最長の旅に出る。

昭和2(1927)年 44歳
東京府荏原郡入新井町(現・大田区中央)に転居。

昭和5(1930)年 47歳
東京府荏原郡馬込町(現・大田区南馬込)に転居。

昭和19(1944)年 61歳
空襲が激しくなり、栃木県塩原福渡へ疎開。疎開中も再三上京。

昭和23(1948)年 65歳
東京に戻り、大田区上池上町(現・大田区上池台)の渡邊庄三郎の別宅を借りる。

昭和32(1957)年 74歳
胃癌のため逝去。

2 千束池「東京二十景」

昭和3(1928)年作

入新井町に転居後、初めて描いた大田区域の作品。スケッチ段階では雪は降っておらず、制作過程で雪景色に変更されました。

「私はやはり静かな、しみじみとした世界が良い。雪もそんな感じのものは心を惹く」※2



4 池上本門寺之塔

昭和29(1954)年作

戦後、最後に描いた東京の姿は池上本門寺。変わらない姿に安堵し、筆をとったのかもしれない。



3 西伊豆 木負

昭和12(1937)年6月

富士に桜をあしらった日本らしい構図は海外輸出を意識したもの。

「見る風景が版画に見えるようになって来た」※3

と語った巴水は何度も富士をスケッチして最善の場所を探りました。



出典：※1 渡邊庄三郎「川瀬巴水 創作版画解説」 ※2 川瀬巴水「巴水芸談」『浮世絵と版画』第1巻第2号 ※3 橋崎宗重「川瀬巴水 版画とその生涯」渡邊規編「川瀬巴水木版画集」

郷土博物館特別展

観覧無料

「川瀬巴水-版画で旅する日本の風景-」

前後期の展示では、作品やスケッチブックに加えて川瀬巴水自筆の日記を初公開。国内では希少な観光ポスターや展示目録・愛用品などのほか、カラー映画「版画に生きる 川瀬巴水」も上映します。

日時 午前9時～午後5時(月曜休館。8月9日、9月20日は開館)

プレ展示
旅先の風景(約30点)
7月11日(日)まで

前期
東京の風景と人物・静物画(約200点)
7月17日(土)～8月15日(日)

後期
旅先の風景(約200点)
8月19日(木)～9月20日(祝)

関連した催しも予定しています。詳細はコチラ

